

03 – 総力特集 量子技術の現在地 求められる幅広い領域での飛躍的な発展

04 – **超伝導量子**
折り紙構造の新回路で集積化目指す

06 – **半導体量子**
2つの電子スピンを自在に操作

08 – **量子通信**
長距離で中継器の原理実証に成功

10 – **量子計測**
広帯域の強力なもつれ光源を開発



12 – 連載 どうやって実現する? 明るく豊かなゼロエミッション社会 第3回 バイオマスで脱炭素に挑む

14 – NEWS & TOPICS

- ◆ がんが引き起こす肝臓の代謝異常を解明
- ◆ 市販のポリエステルを完全分解

ほか

16 – さきがける科学人

長期的な地域活性化の一助に

金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系 准教授 高山 雄貴

SATREPS・福島大学でウクライナ人研究者を受け入れ、研修を実施

JSTnews2022年2月号特集で紹介しましたSATREPS「チェルノブイリ災害後の環境管理支援技術の確立」につきまして、近況が届きましたのでご紹介します。

2022年2月に勃発したロシア軍によるウクライナ侵攻以来、複数の共同研究機関が大きな被害を受けています。戦争の長期化も懸念されており、ウクライナ国内の研究環境は悪化の一途をたどっています。こうした事態を受け、福島大学環境放射能研究所(IER)では、SATREPSの人材育成事業の一環として、ウクライナ国立科学アカデミー原子力研究所のオレナ・ブルドー研究員の研修を受け入れることになりました。

ブルドーさんは、これまでもプロジェクトの一員として、げっ歯類への放射線影響をともに調査してきました。8月から12月上旬にかけて約4カ月間、日本のさまざまな研究機関にも協力いただきながら、ヒトおよび野生生物への被ばく線量評価の最新技術の習得を目指します。今後ともウクライナの情勢ならびに、SATREPSやIERの活動に関心をお寄せいただければ幸いです。



難波 謙二
福島大学 共生システム理工学類
教授/環境放射能研究所 所長
2016年度よりSATREPS研究代表者



オレナ・ブルドー
ウクライナ国立科学アカデミー
原子力研究所 研究員

【当日のプレスリリースの様子】
<https://www.fukushima-u.ac.jp/news/2022/08/010566.html>

【JSTnews 2022年2月号】
<https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/backnumber/2021/202202/index.html>

JSTは、シンクタンク機能、研究開発、産学連携、次世代人材育成、科学と社会との対話など、多岐にわたる事業を通じて、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に積極的に貢献していきます。



▶ P.14上 ▶ P.14上 ▶ P.12 ▶ P.12,P.14下 ▶ P.14下 ▶ P.12

編集長：安孫子 満広
科学技術振興機構(JST)広報課
制作：株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ
印刷・製本：株式会社丸井工文社